

ジョージがラスモハメッド岬のそばまで、帰りついた。出発してから3ヶ月たった。かれは、早くハンスと会いたかった。人間の地球破壊をどうやって止めるのか？

岬の絶壁が見えるシャーク・リーフの北壁をまわり、ジョージは、ようやく自分の旅がおわったと、安堵した。

そのときだった。ジョージの体に、大きな衝撃と痛みがはしった。

大量の緑色の液体が、体から流れだしていた。血は、海中では緑色に見える。若いダイバーが、水中銃で撃ってきたのだ。

硬いウロコのおかげで、鉛は貫通しなかったが、若者は更に撃ってきた。二発目ははずれたが、こんどは別の方向から発射された鉛が、体に深くささった。狙撃者は、ふたりに

たのだ。

かれらは、「人にぶつかってくるナポレオンフィッシュ」を殺す、という明確な目的で撃ってきたのだ。

ジョージは、潜るしかない。深い傷を負ったまま、沈んでいった。

仲良しのムレハタタダイたちが、心配してついでこようとしたが、かれらに潜れる深さではなかった。

ジョージは、沈んでいった。体が弱ってきた。意識が遠くなっていく。しかし海底をめざして、泳ぎつづけた。

不思議だった。海底にむかっているのに、光が見えてきた。

やがてジョージの体ぜんたいが光につつまれ、苦痛がなくなってきた。

